

「やってみる」ことの意義と里地里山の「力」

15年目の今年は18回の活動を計画し、稲刈りが常総市の大洪水で中止になっただけであった。

事故や天変地異が起これば、それまでの当たり前ができなくなってしまう。そのとき初めて、「当たり前のことが、普通にできることの、ありがたさ！」を痛感するのである。

毎年同じ様な活動をくり返しているが、その中で、ぜひ伝えたい活動がいくつかあった。

一つは、8月22～23日に実施された尾瀬沼ハイキングである

平松健人くんをお願いして、長蔵小屋泊の2日間の様子を、子どもの視線でアルバムをつくってもらった。

すると、カメラワークや写真の使い方が、私とは大きくちがっているのである。「こんなところでつかうの？」と、疑問がわいたが、時間が経つうちに「なるほど！」と思わされていることに気づくのであった。(冊子の中のアルバムを見て、ぜひ、健人くんのフィーリングを感じ取ってください。)

また、健人くんは、サケの飼育記録をまとめてくれました。

今までに、工藤咲子さんのおじいちゃんがビデオで記録してくれたことはありますが、子どもの手で記録されたことはありませんでした。

健人くんは3ページにわたって、受精卵16個から4匹の稚魚になるまでの様子を、カメラに修め一言つけくわえてくれました。

子どもによるサケの観察記録は、のらえもんにとって貴重な足跡となりました。

二つめは、しめ縄づくりのことです。

毎年12月下旬に、宅間さんの田んぼで育てた稲わらを使ってしめ縄づくりに挑戦していました。わらをなうことがなかなか出来ず、始めの頃は大変苦労しました。が、3年も続けるとコツを覚えた人が増え、だんだんとデザインに重点が向いていきました。

そんな中、近隣の幼稚園・保育園でもしめ縄づくりを始めました。初めてのときは、わらに触ったことのない人もいました。ですから、「なう」という言葉さえ理解できないのでした。でも、自分の手で作り上げたしめ縄には、思いが込められたようでした。2年目になると、飾りや道具の準備が豊富でした。出来上がったしめ縄飾りを見て、「自分でも、作れるんだ！」と、感想をもらしてくれました。

いつもならお店でお金を出して「値段は？デザインは？」に頭をひねるのですが、材料をそろえ、自分の手でわらをひねり、デザインを考え、時間をかけ汗を流して出来上がったしめ縄には、自分の分身のように感情が乗り移った思いが生まれたのでした。

1年に1回の活動でも、「今度は、こういうふうにしてみよう」というイメージを描けるようになり、着実に前進しているのでした。

そして、三つ目は、里地里山文化を肌でしったことでした。それは、3月12～13日の藤原を訪れたときのことでした。

春スキーを存分に楽しんだ帰りのことです。

いつものように、郵便局の角にある阿部さんに一声かけてから返ろうと、「ちょっとだけ」のつもりで寄りました。

14名もの人数を快く受け入れてくれた阿部さん。コタツを囲んでお茶を飲みながら披露してくれたのは、ここで育ち・採取してきた山東菜の炒め物・落みそ・こんにゃく入りの煮物などです。こんにゃくは、昨夜、阿部さん自らが作ったものでした。どれもが味わい深く美味しい料理で、お茶がすすみました。

里地里山で育て・採ってきた物を、自分で調理・加工するという生活の基本を、つまり「当たり前」のことをみせてくれたのでした。

この流れは自給自足の文化・伝統です。里地里山の力強さを見せてくれた一瞬でした。コタツを囲んでいた14名は、そのことに気づいたのでした。

里地里山という大地がありそこに太陽の光が注いでくれば、様々な植物が育ちます。人々は狭い斜面の畑で野菜や米を作り、山へ行っては山菜を採ってきました。それらを家のかまど（火力）で調理し、食料としてきたのです。また、植物が育てばそれらをエサとする熊や鹿が成育します。タンパク源は、熊や鹿、清流の岩魚などで補われてきました。

身の回りには自然は、全てが大切な生産手段だったのです。それらが里地里山の人々を支え、生きるための調理・工夫が生活の知恵となって文化・伝統として継承されてきたのでした。

都市に住む私たちは、生産手段は全くありません。お金を持って、すでに出来上がった食べ物や道具を買うだけなのです。もしお金が無くなれば、もう生きていくことはできません。

この都市と里地里山のちがいを、誰しもがしっかりと認識しておくことが重要だと思います。

一つは、生産手段を持たない都市生活者は、里地里山の生産物に支えられて生きているということです。二つめは、お金に絶対的な価値観をおくのではなく、それは生活し易くするための手段と考えるようにしたらどうでしょうか。三つ目は、自らが生産手段に関わる体験をくり返しながらか、自然にあるものを利用・工夫できる知恵を身につけていくことだと思います。最後に、それら故に、都市生活者と里地里山の生活者（いわゆる農業・林業・漁業などの第一次産業の人々）とは仲良く協力し合い、共生していこうとする理念がぜひとも重要です。

里地里山である藤原には、ちがいに気づかせてくれるフィールドがたくさんあります。

のらえもんが藤原にこだわり、年4回以上も訪れている理由は、そこにあります。今後は、古民家を活用しながら、いっそう里地里山の活動を深めていきたいと思っています。

最後になりましたが、のらえもんの活動を支えてくれました会員の皆様はもちろんのこと、ご協力いただきました講師の方々・キリン福祉財団・足立区・小学校・こども園・保育園・宅間農園の皆様に深く感謝申し上げます。

27年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月11(土)	春の生き物観察と桜見物 カブトムシの幼虫配布	都市農業公園	大 17 小 19 幼 1 計 37
2	4月25～26日 1泊2日	早春の里山散策 野焼き見学 古民家見学 春の星空観察	みなかみ町 藤原	大 6 中 2 小 2 計 10
3	5月17(日)	田植え体験 イチゴ狩り キリンビール工場見学	宅間農園 キリンビール 取手工場	大 31 中 5 小 18 計 54
4	6月6(土)	篆刻をつくろう 講師：下村 庸三	鹿浜西小学校 理科室	大 9 中 2 小 5 計 16
*	6月30(火)	茅輪くぐり 地域の伝統文化探検	鹿浜島神社	大 2 一般参加者 30名以上
5	7月22(水)	竹箸づくり マイハシに挑戦	鹿浜西小学校 理科室	大 7 中 2 小 4 計 13
6	7月24～26日 2泊3日	夏休みキャンプ体験6回目 グループによるカレー作り かまどの火おこし 魚つかみ 武尊山に挑戦	宝台樹キャン プ場	大 12 中 4 小 7 計 23
7	8月22～23日 1泊2日	尾瀬沼ハイキング 尾瀬長蔵小屋泊	長蔵小屋～ 尾瀬ヶ原～ 鳩待峠	大 8 中 2 小 3 計 13

8	8月29(土)	ハゼを釣ろう 講師：福藤 恭司 ハゼ・・・21 セイゴ・・・6 ヌマチチブ 4	都市農業公園 下の荒川	大 10 中 2 小 8 幼 1 計 21
9	9月13(日)	稲刈り体験 常総市の大洪水で中止	宅間農園	
10	10月 4(日)	あだちNPOフェスティバル 2015 紫蘇ジュースの販売 古着の草履販売 ドングリクラフト 草木染め	足立区役所	スタッフ 11
*	7月22～ 10月10日	スズムシ日記	観察者 古高 利男	
*	11月 7(土)	新米“のらえもん米”の販売	いきいき館 駐車場	509kg
11	11月 7(土)	葉でしおりをつくってみよう ・ クレヨン ・ パウチ ・	鹿浜西小 理科室	大 7 中 1 小 8 計 16
12	11月15(日)	手漉き和紙体験と ミカン狩り 日本酒の蔵元見学	埼玉県小川町	大 23 中 5 小 16 計 44
13	12月 5(土)	サケの受精卵配布と 野鳥観察 野鳥クラフト	都市農業公園 会議室 新芝川付近	大 9 小 10 計 19
14	12月26(土)	しめ縄をつくろう ・ わら、稲穂 ・ 万両 ・ 紙垂 ・ カード ・	鹿浜西小 理科室	大 14 中 2 小 12 幼 1 計 29

15	1月16～17日	スキー体験 ・ 自分のイメージで滑ってみよう ・ 夜の交流会	菅平ダボススキー場 菅平プリンスホテル	大 15 中 2 小 8 計 25
16	2月20(土)	草木染め ・ 玉ねぎの煮汁 ・ 定着液 ・ ハンカチ	鹿浜西小 理科室	大 10 中 2 小 10 計 22
17	3月5(土)	サケの稚魚の放流と 梅の花見物 * 平松健人くんの サケ飼育記録	都市農業公園 新芝川	大 9 中 2 小 6 計 17
18	3月12～13日	早春の藤原 ・ 春スキー ・ 雨呼山	みなかみ町 藤原 宿泊：ペンションPAL	大 8 中 2 小 4 計 14

27年度参加者：大人197、中学生35、小学生140、幼児3、合計375

* 生物教材の配布

次のような生物教材を、希望校に配布しました。

- カブト虫の幼虫
- カイコの卵
- サケの受精卵

* のらえもん出前授業

次のような内容で、希望校に出前授業しました。

- サケの一生
- カイコの育ち方
- 草木染め
- しめ縄づくり